

医 局 の 先 生 方 へ

脇付けについて

現在、医師の間だけで使われている脇付けの誤用について、以前より非常に気になっております。ここに改めてお知らせとお願いを申し上げます。先輩諸氏が使われているからといって、どうしても使わねばならないものでもありません。勇気をもって止めて頂ければ有り難いかなと考えております。皆が使っているためどうしてもやめられない場合であっても、以下の常識を知った上でお使いになった方がよろしいかと思われまます。

1. 脇付けは封書の宛先の方への尊敬を表すためと、親しい人へ出す時に使う親展の意味を持ちます。縦書き封書では相手方の名前の左下に行を変えて書き、横書き封書の場合は右下に一段下げて書きます。

2. 侍史は、高貴な人の秘書官あるいは書記を意味します。机下は字の如く机の下を意味します。いずれも直接には相手に手渡さないことをもって尊敬の意を表します。また、そのことから、相手の方のみが読むことが出来るという意味で親展の意味を含みます。

3. 身分の低い者とか物に『御』をつけ始めたのは何故なのかと不思議な気がしますが、国語辞書などにおいては余りの誤用の多さから、何時からか括弧をつけて『(御)侍史』とも書かれる場合があると記されています。しかし、私たち年配の者は、さすがに机の下に『御』を付けるのはどうしても気色の悪さを感じています。

4. 因みに、侍史は自分より目上の人に書き記します。机下は同輩、あるいは目下の人に敬意を表して記します。それ故、決して御自分の医局の教授宛に机下と書くべきではありません。

5. メールやファックスが手紙と同じ書き方をすべきなのかどうなのかについては、まだ、もう少し時間を待たねばならないかと思えます。しかし、原則、脇付けは親展の意味を持ちますから、封書を開けた時の手紙本文の相手方の下に書いてあるのと同様に、本質的には誤用です。また、本来オープンであるものや多くの人に見てもらおうための葉書、回覧板、商用文、併診用紙などに書くのもおかしいことだと思って下さい。

時代につれ言葉は変わるものですし、旧いしきたりなども無くなっていくものです。しかし、今のところこの脇付けの誤用は医師の間だけで使われています。(製薬会社などが、不承不承使いだしているようですが) 官公庁などではなるべく余計なものは付けないようにすべてに省略化が進んでおり、脇付けなどは付けない方向に進んでいます。我々の方からいたずらに誤用を促進するのも如何なものかと考えています。

文責：泌尿器科・岩崎皓（石東により一部改変）